

アクティブシニア市民懇談会

提 言 書

アクティブシニア市民懇談会

平成22年3月

はじめに

第一次ベビーブームで生まれた“団塊の世代”が、少し前から次々とシニア世代の仲間入りをしています。これは時間の流れとして当然のことなのですが、気付いてみれば一昔前には考えられなかったような超高齢社会がすぐ目の前のところまで来ています。

豊橋市でもあと10年足らずで4人に1人が高齢者という状況になると予測されています。それだけ高齢者が増えれば、現在は少子化が進行していることもあり、年金、医療、介護、そしてそれらの財源等、様々なところに影響を与えることは容易に想像できます。

超高齢社会とは、言い換えれば超長寿社会とも言えます。日本は長寿大国とよく言われますが、せつかくの長寿をより豊かに明るく楽しく過ごせることが望まれた社会だと考えられます。

最近では「高齢者」の捉え方も変わってきています。60代と言えば昔は立派に高齢者でしたが、今では高齢者と言えば怒られてしまいます。しかし、世間ではその人たちを昔と変わらず高齢者として見て接しており、当人と世間との間で意識にギャップのあることが内閣府等の調査で判明しています。こういった意識のギャップは、高齢化の急激な進行と無関係ではないでしょう。60代以降の意識の変化に伴い、彼らのライフスタイルも変化してきています。それを受けて社会のスタイルも工夫していく必要があると思います。

そうした問題意識の下で「アクティブシニア市民懇談会」は様々な議論を重ねてきましたが、団塊の世代を中心としたシニア世代が生きがいを持ち、生涯を通して積極的に活動していくための環境が現在の豊橋には十分とはいえず、早急な整備が必要だと感じています。

ここに提言させていただきました数々の内容については、豊橋市民の声としてご認識いただき、輝かしい未来の実現に向けて可能な限りご尽力いただくことを期待しております。

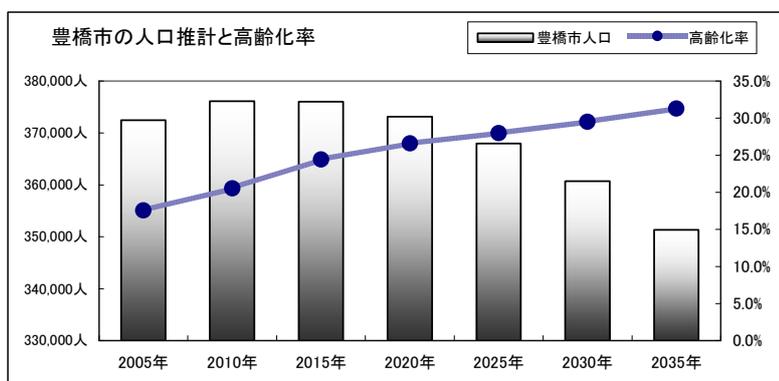
平成22年3月31日

豊橋市アクティブシニア市民懇談会
座長 西村正広

1. 背景と経緯

2005年、我が国の総人口は、大正時代の国勢調査開始以来、初めてマイナスに転じました。一方で高齢者人口は2020年まで急速に増加し、高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は2020年には26.9%、2035年には33.7%に達すると見込まれています。これは出生率の低下に加え、第一次ベビーブームにより誕生した団塊の世代（1947年～1949年までに生まれた世代）を始めとした層が高齢期を迎えることが主因と考えられています。

豊橋市の状況も2010年頃をピークに人口は減少に転じ、2020年には4人に1人が高齢者という超高齢社会が到来することが予測されています。



(国立社会保障・人口問題研究所 日本の市区町村別将来推計人口 2008年12月推計を基に作成)

豊橋市では、この超高齢社会に対応した方策を検討するため、これまでも団塊の世代を中心としたシニア世代へ意識調査を行うとともに、シニア世代向けの情報誌を発行してきました。そしてこの大きな課題に向け、市民の声を取り入れるため「アクティブシニア市民懇談会」を開催しました。

この懇談会では、主体的・積極的に生きがいを持って活発に活動する50代半ばから60代の人たちを「アクティブシニア」と定義し、この超高齢社会を乗り切るための鍵となる存在だと考えました。そして、様々な専門的な立場、また市民の目線からこの2年間、超高齢社会に対する豊橋市のあるべき姿について協議を重ね、ここに提言書としてまとめるに至りました。

2. シニア世代の現状

(1) シニア世代の意識調査より

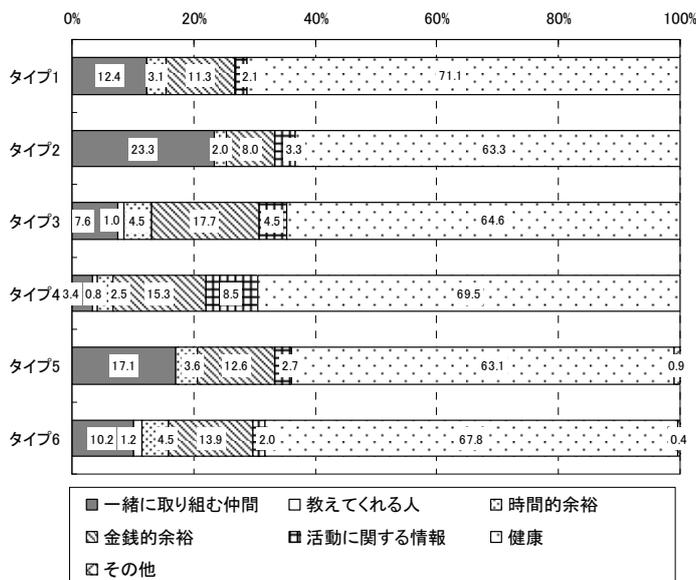
これからの超高齢社会の対応を考えるためには、豊橋のシニア世代の特徴を掴んでおく必要があります。これについては、平成 18 年度に豊橋市が市内のシニア世代を対象に実施した意識調査に参考となる結果が出ています。

まず、豊橋のシニア世代の積極性を見ますと、「自分から行動する人」は約半数いますが、同時に「誘われれば行動する」と答えた人も約半数（45.6%）占めていることがわかります。この人たちは自ら積極的な行動をしないため、外からの勧誘が無いと閉じこもってしまう可能性があります。誘ってくれる人や機会の多い団体・グループに所属していればそれほど問題になりませんが、そうでない場合は心配です。

社会性 積極性	社会性		
	団体やグループ で活動	ごく親しい範囲 の人と活動	ひとりで活動
自分から行動する	タイプ1 (15.7%)	タイプ2 (20.9%)	タイプ3 (12.6%)
誘われれば行動する	タイプ4 (12.1%)	タイプ5 (26.3%)	タイプ6 (7.2%)
誘われても行動する ことは少ない	タイプ7 (0.5%)	タイプ8 (1.4%)	タイプ9 (3.3%)

(平成 18 年度 豊橋市「55 歳からの楽しみや生きがいづくりに関する意識調査」より)

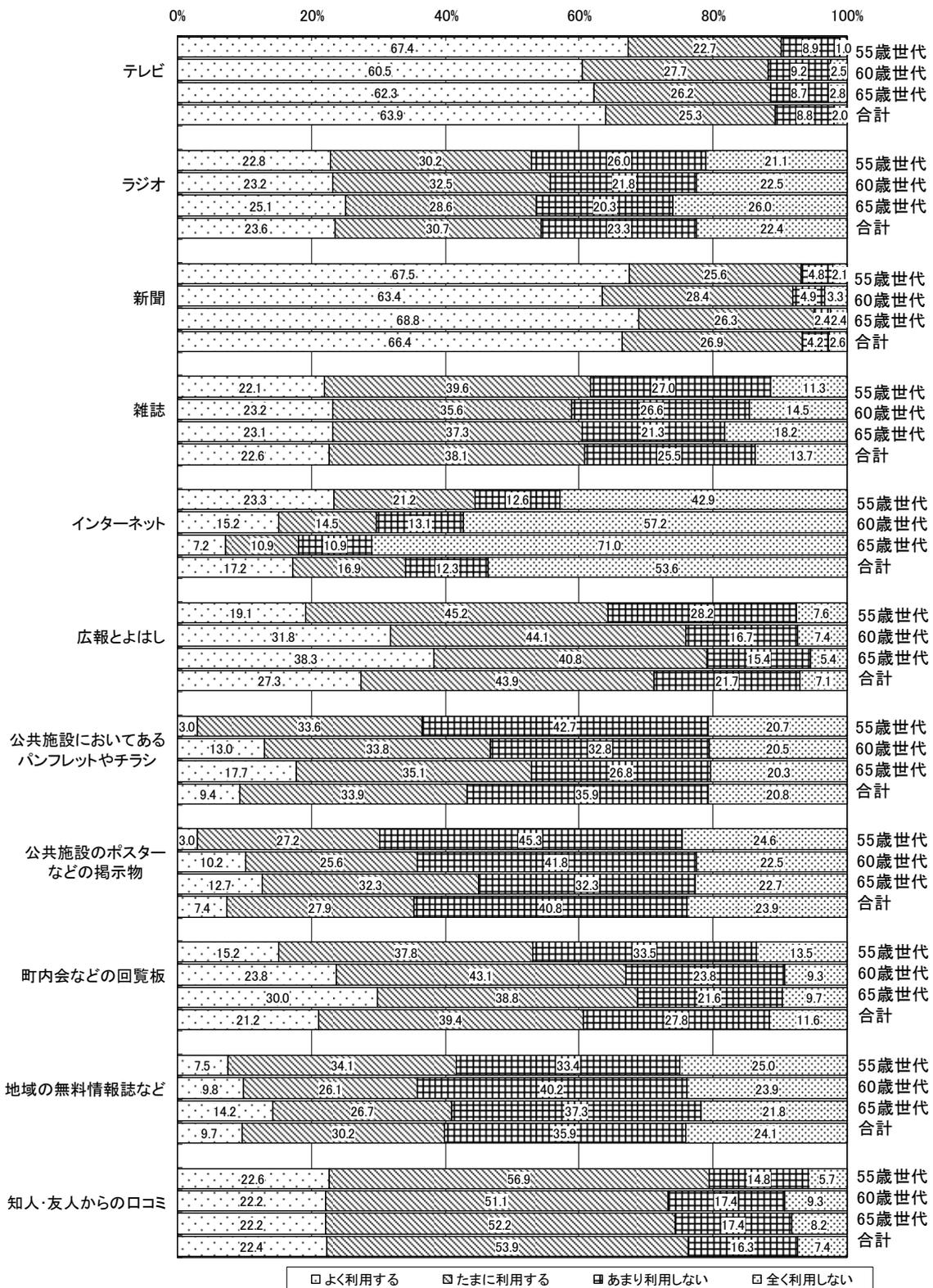
また、活動するために何を重要視するかをタイプ別に見ますと、全体では「健康」を挙げる人が圧倒的に多いですが、それ以外の項目では自分から行動する人ほど「一緒に取り組む仲間」を重要視する傾向が伺えます。



タイプ1		タイプ2	
項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
一緒に取り組む仲間	12.4	一緒に取り組む仲間	23.3
金銭的余裕	11.3	金銭的余裕	8.0
時間的余裕	3.1	活動に関する情報	3.3
タイプ3		タイプ4	
項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
金銭的余裕	17.7	金銭的余裕	17.8
一緒に取り組む仲間	7.6	活動に関する情報	8.9
時間的余裕	4.5	一緒に取り組む仲間	4.3
タイプ5		タイプ6	
項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
一緒に取り組む仲間	17.1	金銭的余裕	13.9
金銭的余裕	12.6	一緒に取り組む仲間	10.2
時間的余裕	3.6	時間的余裕	4.5

(平成 18 年度 豊橋市「55 歳からの楽しみや生きがいづくりに関する意識調査」より)

活動情報を得るために普段利用する情報源を見ますと、「新聞」「テレビ」以外では「広報とよはし」や「雑誌」等の紙媒体、「ロコミ」等がよく利用されています。「インターネット」については、他の媒体と異なり年齢層が下がるほど利用率が増える傾向にあり、現在の利用者は少数であっても今後の情報提供方法としては期待が持てます。



(平成 18 年度 豊橋市「55 歳からの楽しみや生きがいづくりに関する意識調査」より)

積極的に生きがいを持って活発に活動するアクティブシニアは、同世代に対する影響力や仲間意識の高さから「周囲への活動のお誘い」を行い得る存在だと考えられます。これは、勧誘を待つ人が約半数に上る豊橋市にとって、非常に重要な役割を果たすのではないのでしょうか。このアクティブシニアを増やすことが、今後の超高齢社会に対応していくための大きな鍵になると考えます。

(2) シニア世代を取り巻く環境と課題

アクティブシニアを増やすためには、その活動の受け皿となる団体や活動場所が必要となります。幸いにも豊橋市にはシニア世代に関係の深い社団法人や財団法人、NPO 法人等の団体や、世代を超えて構成される小規模グループが無数に存在しており、各分野とも様々な活動されています。

また、こういった各種団体へ参加しやすくする役割を果たす講座や教室が多くの場所で実施されています。これらの講座や教室を経てさらに小規模グループが形成されるケースも少なくありません。それ以外にも、行政や各種団体が行う事業にはシニア世代が有効に利用できるものが多くあり、市民館や体育館等、活動する際に利用できる施設も各地に存在しています。

しかしながら、これらの各種団体や講座、事業、活動場所等まで含めた「社会資源」のほとんどは、分野・団体ごと個々バラバラに存在していることが多く、多数の市民はその存在に気付くことが困難な状況にあると言わざるを得ません。やりたいことがあったとしても、それをどこに尋ねればよいのかを知らないと必要な情報にたどり着けないのです。分野や管轄の壁によって情報共有が阻害されており、せっかくの社会資源を活かしていないのが残念です。

一方で、各種団体の中核を成すリーダーやキーパーソンについては依然として不足しているという指摘があります。アクティブシニアの増加のためには、これら既存の各種団体の活動を活性化し、また新たにグループを創出するリーダーや、キーパーソンが求められています。

アクティブシニアの増加のためには、シニア世代の社会参加が必要です。そのためには、こういった各種団体や講座、事業、活動場所等からなる社会資源の情報と、シニア世代との「つながり」を作りやすい環境が必要なのではないのでしょうか。

3. 提言

シニア世代の価値観や意識の多様化により数多くの分野で無数の社会資源が生まれている現在では、情報が様々な所に分散しています。「自分が何をしたいのか」、また「その情報をどこで手に入れられるのか」を的確に知り、行動していかないと、自分が本当に必要としている情報が得られないという状況です。

豊橋市には前述のようにアクティブシニアの増加につながる社会資源が数多く存在しています。しかし、お互いの連携がうまく取れていないため自身以外の情報を持っておらず、他の有用な情報を伝えられないことが多くなっています。

これは、シニア世代の約半数が勧誘を待っている豊橋市には良い状況とは言えません。「これまでの職業経験を活かした仕事をみつきたい」「ボランティアに参加するための機会を得たい」「趣味を通じた仲間が欲しい」「一緒にスポーツしたり学習したりする仲間が欲しい」などの希望を持ち、人生を積極的に送りたいと考えているシニア世代にとっても、また本来それらのニーズを支えるはずの各種団体にとっても大きなマイナスとなっています。

今後の超高齢社会に対応するためにはアクティブシニアの増加が必要不可欠です。アクティブシニア市民懇談会は、そのための方策について2年にわたり検討した結果、以下のような取り組みの推進が豊橋市には必要だという結論に達しました。

- ① シニア世代に向けた情報収集と提供の一元化
- ② インターネット環境の構築やイベント実施等による「つながりづくり」の推進
- ③ シニア世代の活動に係る相談員（コーディネーター）の設置
- ④ ①～③は行政と市民との協働が望ましく、行政の一層の支援が必要

以上を満たす具体的な方策として、次の要件を満たす「アクティブシニアのための拠点」について提言します。

(1) 「つながりづくり」を重視した事業と運営

a. シニア世代に向けた情報収集と提供の一元化

豊橋市には社会資源として、既に様々な各種団体、講座、事業、活動場所、人物等がありますので、それらの情報を一カ所に集約し、シニア世代へ提供します。「アクティブシニアに向けた情報は全てここで揃う」というものを目指すことで窓口の一本化を図ることができます。また、情報を入手しようとする人だけでなく、情報を提供する側にもシニア世代へ向けた情報提供がしやすくなるというメリットがあります。

b. 「アクティブシニアネット」の構築・運営

各種団体や施設、講師、また民間企業等にも協力を仰ぎ、情報の相互提供を可能とする「アクティブシニアネット」をインターネット等で構築・運営します。WEB サイトであれば自ら更新可能な情報登録型とし、各種団体の情報だけでなく、事業や活動場所、見どころ、意見交換の場等を含めた総合情報サイトとして機能させ、あらゆる情報の収集と発信を図ります。

c. シニア世代向け情報誌の発行

インターネットによる情報発信はこれからの時代に必須のものですが、シニア世代向けの情報媒体としては、現在はまだインターネットよりも紙媒体の方に分があります。そこで、上記bについて整備しつつ同様の内容の情報誌を作成、配布します。なお作成にあたっては、民間企業等による広告掲載や、公共施設以外の一般店舗や企業に配布協力を依頼する等、低コストでより広い範囲に読んでいただけるような仕掛けを考えていく必要があると考えます。

d. シニア世代向けイベント等の企画、実施

直接的な情報提供だけではなく、その情報を利用したイベント等を実施します。例えば「アクティブシニアネット」に登録した各種団体のブース出店によるアクティブシニアフェアや、講座・シニア大学の開催等を企画し、シニア世代と各種団体との出会いの場を提供することで「つながり」のきっかけとなるような事業が考えられます。

e. コーディネーターの設置と拠点運営

積極的な情報収集を行い、それを提供する体制を整えたとしても、自分から情報を求めないと必要な情報が手に入れないという状態では意味がありません。約半数の人が自分から行動せず、勧誘を待っているという状況では、収集した情報を取捨選別し、個々のニーズに合った情報をプロデュースするコーディネーターとなる人が重要となってきます。「何かをしたいが自分のしたいことがよくわからない」「したいことはわかっているがどこへ尋ねたら良いのかわからない」といったシニア世代も、まずはコーディネーターへ相談することで解決することができるようになります。

コーディネーターには、相談者のニーズを的確に把握し、膨大な情報からそのニーズに合致するものを見つけ、わかりやすく相談者へ伝える能力が求められるようになります。拠点にはこういったコーディネーターを多く常駐させることが望ましいと考えますが、誰にでも務まるものではありません。上記のようなニーズマッチングを含めた事業を効果的に行うためには、これまでの経験や人脈等が大きく関係してきます。そこで拠点運営については行政が行うのではなく、集団活動や事業等の経験が豊富な

アクティブシニアに、その活躍の場として開放していくことが最適だと考えます。

(2) 拠点となる施設

拠点となる施設には、コーディネーターの相談スペース以外に、サロンやカフェのような誰でも自由に入出りできるたまり場・社交場的なスペースや情報提供用の掲示板等が必要です。これは、情報を求めて来場したシニア世代に対し、各種団体が直接勧誘や紹介を行えるよう、常設の「つながりづくりの場」を設ける意図があります。

また、「つながりづくり」に即したイベントを実施するスペースや各種団体が利用できる多目的室等の確保が必要です。これらにより、情報を求める者だけでなく情報を提供する側も拠点施設へ集客することができ、拠点を中心とした「つながり」の形成が期待できるようになります。

この拠点運営が軌道に乗れば、拠点を情報バンクとして中心に据え、例えば地域の市民館等を利用してその輪を全市的に広げていくことも不可能ではないと考えます。

(3) 協働

以上のような方策を推進していくためには行政と市民との協働が不可欠ですが、お互いに得意な分野と役割があると思います。今後は、イベントや講座等を行政が直接行うようなやり方よりむしろ、アクティブシニアの活動に対する支援（資金援助や活躍の場の提供等）や、活動に向けた環境整備（情報を含めたインフラ整備や場所の提供等）に注力し、市民の力を積極的に取り入れるよう取り組んでいただきたいと思います。

以上、今後豊橋市に取り組みを推進していただくよう提言とさせていただきます。

アクティブシニア市民懇談会委員名簿

平成20年度

(敬称略)

氏名	選出区分	備考
西村 正広	学識経験者	愛知大学経済学部 准教授
森本 晁生	関係機関・団体	(財)豊橋市体育協会
小澤 節子	関係機関・団体	(社)豊橋市シルバー人材センター 事務局次長
山本 照夫	関係機関・団体	豊橋商工会議所 業務推進部長
野田 光司	関係機関・団体	豊橋市老人クラブ連合会 総務部長
河井 裕	関係機関・団体	(福)豊橋市社会福祉協議会 主事
清原 正高	公募委員	
小林 芳樹	公募委員	
内藤 節子	公募委員	
中西 正	公募委員	

平成21年度

(敬称略)

氏名	選出区分	備考
○ 西村 正広	学識経験者	愛知大学経済学部 准教授
森本 晁生	関係機関・団体	(財)豊橋市体育協会
小澤 節子	関係機関・団体	(社)豊橋市シルバー人材センター 事務局次長
松野 政春	関係機関・団体	豊橋商工会議所 常務理事
柵木 良行	関係機関・団体	豊橋市老人クラブ連合会 会長
河井 裕	関係機関・団体	(福)豊橋市社会福祉協議会 主任
清原 正高	公募委員	
小林 芳樹	公募委員	
内藤 節子	公募委員	
中西 正	公募委員	

○座長

アクティブシニア市民懇談会開催経過

平成20年度

回	日程	主な協議内容
1	7月16日(水)	アクティブシニア活動促進に係る豊橋市の取組状況について
2	8月28日(木)	新しい高齢社会に向けた施策・事業について
3	10月9日(木)	アクティブシニア等に対する定義について
4	12月2日(火)	アクティブシニア情報紙の提案
5	3月3日(火)	アクティブシニア情報紙の内容、方向性について

平成21年度

回	日程	主な協議内容
1	6月29日(月)	アクティブシニア情報紙のタイトル選定について
2	8月25日(火)	豊橋市における団塊世代に係る事業について
ワーキング	10月2日(金)	提言書骨子について
3	10月26日(月)	提言内容に係る協議
ワーキング	12月3日(木)	提言内容に係る協議
4	1月12日(火)	提言内容に係る協議
5	3月9日(火)	提言書の最終確認